

事業計画書

15

1. 事業名称 皆でつくる根木内歴史公園 III

2. 実施主体

■ 団体名： 根木内歴史公園サポーター（根っ子の会）

■ 事業担当課： 公園緑地課

3. 取り組もうとする課題（テーマ）と事業

「歴史とみどりと水の調和」をテーマとしたこの公園を、トンボやカエルが生息し、野鳥が飛来する自然豊かな公園にすることを望んでいます。公園づくりは開園（平成 18 年 4 月）した時がスタートで、「公園をどのように保全し、育て、利用していくか」という課題に対して、根っ子の会が継続して活動することにより、市民の皆さんに「豊かな自然を楽しめる場」を提供していけるものと考え、この事業の提案するものです。

根っ子の会の活動はスタートから 3 年が経過し、21 年度は第 2 回目の「根木内歴史公園ボランティア体験講座」を開設し、今後の継続した活動に繋がるよう会員増加を図りました。公園づくりには会員間の合意形成が必要であり、定例活動・観察調査および月 1 回のミーティング開催で行政を交えて会員間で話し合いを重ねています。20 年度は活動の土台をつくり、21 年度はイベント実施増による市民の皆さんとの関わりを増やし、22 年度はより積極的な公園の維持管理及び整備に努め、来園者に楽しんでいただけるよう、活動を発展、継続させていきます。

1) 定例活動：湿地帯および樹林地の保全活動（下草刈り、ヨシ刈り、清掃 等）

2) ミーティング

3) 調査観察会：花ごよみ（植生の観察会）、定点調査会

4) イベントの開催等：

① 虫ハカセになろう、② 夏休み工作づくり、③ ヨシ原刈り

④ 公園紹介の写真展、⑤公園で楽しむ音楽会、⑥鳥の観察会 他

5) 広報活動： ① HP に活動記録、イベント等を掲載

② 掲示板への掲示コンテンツの掲載

4. 事業目的と成果目標

〔事業目的〕

1) 「公園をどのように保全し、育て、利用していくか」という課題に対して、行政を交えて会員間で合意形成を図っていく。

2) 湿地帯は主に夏から秋にかけて渇水状態になることがあり、活動開始以来、年々豊かな生態系に向かっている状況が途切れてしまう危惧があり、これの解消に取り組む。

3) 特に湿地帯の下草やヨシなどの生育が旺盛であり、良好な景観を保持するために除草作業などを適宜に行う。また樹林地部の竹や不要樹木の伐採、土塁の崩落防止対策の作業、湿地内の遊歩道（観察路）の整備作業を行う。

4) 近隣小学校の先生、生徒にも来園を勧め、子どもからお年寄りまでが「豊かな自然」や

「古来の歴史」を楽しめる場を提供する。

- 5) 掲示板やHPを活用し、根っ子の会の活動状況や市民の皆さんに出来るだけ有用な情報を提供する。

〔成果目標〕

- 1) 保全作業を行うことによって、四季を通じての景観保持や園内の危険低減に配慮し、来園者数が増加する。
- 2) 湿地に常時水を確保することにより、水辺としての価値が高まり、自然体験学習も出来るようになることから、小学校等の校外活動での利用が増える。
- 3) イベント開催や歴史案内を通じて、子どもからお年寄りまでが「豊かな自然」や「古来の歴史」を楽しめる場とすることで、幅広い年齢層の方々に利用してもらえる。
- 4) 掲示板やHPを充実させることにより、多くの市民の皆さんに有用な情報を提供する。

5. 協働の意義

〔提案者(根っ子の会)〕

- 1) 来園者および近隣住民から根っ子の会の活動が容認され、問題のない円滑な活動を推進できている。
- 2) 「協働で、何を、どこまでできるのか」を、市民と行政がお互い歩み寄り、諦めずに取り組んでいくことで、公園を活性化させることができる。
- 3) 多くの市民が「自然や歴史の価値」を享受することができる。
- 4) 市民が「まちづくりに貢献できる」というやりがいがある。

〔市(公園緑地課)〕

- 1) 協働のノウハウ(成果に向けての「ひと・もの・かね・しくみ・じょうほう・きもち」のつくり方)を今後の公園緑地行政に生かすことができる。
- 2) 行政だけで同じことをやることを考えれば、より軽い負担で、大きな効果(自然や歴史がより多くの人に享受できる)が得られる。

6. 事業実施の役割分担

〔提案者の役割(根っ子の会)〕

- 1) 公園の保全活動、調査観察会、イベント開催、広報活動などにおける労務
- 2) 公園に関する情報、知恵、技術、人材、一部資金(会費)等の提供

〔市の役割(公園緑地課)〕

- 1) 根っ子の会の活動全般へのバックアップ
(必要に応じた市担当者の派遣、情報の提供、行政が負担すべき物品等の提供)
- 2) 必要に応じた公園の再整備
- 3) 負担金の拠出

7. 事業の具体的なスケジュール

- 1) 定例活動: 毎月第1、3、4金曜日 9時30分～14時(＋定例外活動日: 必要な都度)
 - ① 樹林地、湿地帯の保全活動
(竹や不要樹木の伐採、下草刈り、ヨシ刈り、園路の整備等)
 - ② 城址口植栽の整備、土塁の崩落防止等の検討および実施(千葉大との連携)
 - ③ 「公園の未来図」の検討継続および未来図に向けての現場作業

- 2) 調査観察会： 月2回程度の実施(千葉大との連携)
 - ① 花ごよみ:月1回の植生観察会
 - ② 湿地定点の調査観察、植生調査、移植保護対策、貴重種や群生植物の記録と周知
- 3) イベント、ボランティア講座の開催:
 - ① 虫ハカセになろう(子どもたちを対象とした虫の観察会) 7月
 - ② 夏休みの工作づくり(竹細工、ヨシズ編みなど) 8月
 - ③ 森の音楽会 10月
 - ④ ヨシ原刈りイベント(湿地帯に密生するヨシ刈り) 11月
 - ⑤ その他(緑と花のフェスティバル参加、剪定実習) 4月
 - ⑥ 公園ガイド、公園紹介の写真展開催 随時
 - ⑦ 近隣小学校、近隣町会との交流 随時
- 4) 広報活動:
 - ① HPは月2~3回の更新作業を行い、定例活動やイベント関係等を掲載
 - ② 掲示板(3基)には、イベント開催などのお知らせ、活動状況・自然の見どころ・歴史や地形に関する情報などを適宜掲載
 - ③ お知らせや情報のチラシ配布、近隣町会へのお知らせ配布

8. 将来の展望

- 1) 「公園の未来図」について
根っ子の会の会員間と公園緑地課で検討中であるが、纏った段階でHPや園内の掲示板に掲載し、市民からの意見や提案も検討を行う。
- 2) 会員の募集について
適時会員募集を行う。
- 3) 活動資金の確保について
市内の企業や近隣の町内会に協賛会員として資金提供を呼びかけ、さらに、企業助成金制度を検討して、安定した活動資金を確保する。
- 4) 協働のモデルケースについて
樹林地と湿地帯を含む自然豊かな公園の保全管理の方法や公園の利用のあり方について協働で進める試みは、松戸市ではこの公園がはじめてであるため、先進的モデルケースとして継続発展させていく。
技術的・専門的なことは基本的に行政に任せることであるが、市民ボランティアが出来ることは積極的に取り組む考えで活動を推進する。
- 5) 協働事業提案制度適用以降について
制度適用以降も、根っ子の会と公園緑地課との協働事業として継続させる。

この公園での活動は、「豊かな自然」と「古来の歴史」を楽しめる場にしていくことですが、何よりも「自分たちの街」を「自分たちの手」で「安全で、快適な、暮らしやすい街」にしたいという願いから生まれたものであり、「街のために」「皆のために」「自分のために」という、やりがいのある活動です。この市民と行政の協働活動を継続することにより、松戸市が「豊かで活力のある、住んでよかった街、住みたい街」になることを願っています。

事業の予算計画

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

提案者	（自己資金）	金 額	積算内訳
	会費	27,000	27名×1,000円
	寄付金等	30,000	
	自己資金合計 a	57,000	
	労力換算額計 b	518,000	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額 c	477,500	
	資金合計額 d	534,500	事業費 g と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の90%以内
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算（支出）】

項目		金 額	積算内訳
負担金の交付対象経費	保険料	31,200	
	広報費	38,300	
	通信費	10,000	
	消耗品費	196,000	
	備品費	100,000	
	会場費	24,000	
	燃料費	20,000	
	謝金	115,000	
	対象となる経費合計額 e	534,500	
その他経費	予備費	0	
	その他経費合計額 f	0	
事業費（g）（e+f）		534,500	収入合計額(d)と同額

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にしてください。

労力換算計算書

(単位：円)

項目		換算額	積算内訳			
労力換算額	活動計画		人数	時間	回数	500 円
	定例活動	360,000	12	2	30	500
	調査観察	50,000	5	2	10	500
	イベント	108,000	12	3	6	500
	合計 b	518,000				